

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0801003

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 地域子育て支援拠点事業実施要綱
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	A	
単位施策	2 「子育て」支援の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	子育て支援拠点事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	遊びの広場利用者数・親子教室開設数・相談業務数		#N/A	
事業目標	年間利用者数6,000人・親子教室 120回・相談業務 40件	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加 住民協働	1 子育てボランティア	関係例規・法令名	2 ⇒	
		関係個別計画名	1 雄武町次世代育成支援行動計画	

全体計画		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施・普及促進の努力	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施・普及促進の努力	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施・普及促進の努力	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施・普及促進の努力	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施・普及促進の努力	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施・普及促進の努力	
	事業費(千円)	9,600	3,675	3,675	750	750	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	2,250			750	750	
	道支出金	7,308	3,654	3,654			
	地方債	0					
	その他	42	21	21			
	一般財源	0					
実 績 事 業 費	事業費(千円)	9,232	3,696	3,450	638	740	
	財源内訳						
	国庫支出金	2,086			638	740	
	道支出金	7,121	3,681	3,440			
	地方債	0					
	その他	25	15	10			
	一般財源	0					
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) ・子育て支援拠点事業補助金 ・臨時職員雇用保険料	【評価・実績】	(実施内容等) 育児相談、あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施・普及促進の努力 (実績:利用者4,896人,親子教室110回、相談36件) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 育児相談、あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施・普及促進の努力 (実績:利用者3,674人,親子教室100回、相談28件) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 育児相談 あそびの広場 親子教室の開催 育児講座(手作り絵本製作) (実績:利用者3,971人、親子教室128回、相談30回) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 育児相談 あそびの広場(親子教室、開放日) 特別保育事業等の積極的実施・普及促進の努力 (実績:利用者4,084人、親子教室126回、相談43件) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値	年間利用数4800人・親子教室90回・相談業務30件	年間利用数4800人・親子教室90回・相談業務30件	年間利用数6,000人・親子教室120回・相談業務40件	年間利用数6,000人・親子教室120回・相談業務40件	年間利用数6,000人・親子教室120回・相談業務40件
		年度達成率		101%	94%	85%	99%
		全体達成率		39%	74%	81%	89%
		事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆

事業名	子育て支援拠点事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	豊田 通敏
		評価者 作成者 職氏名	主査	八重樫聖子

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	子育て家庭	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	子育て支援センター利用者数		
【抱える課題やニーズは】	子育て不安や戸惑いを感じる母親が増加している。共感し合える仲間との交流を求めている。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地域全体で子育てを支援する基盤を形成し、関係機関との連携により育児支援の充実を図る。		① 年間利用者数	目標年度	平成24年度
				目標値	6,000人
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	育児不安の軽減と、孤立した子育ての解消により、親が前向きに子育てができ、子どもが健やかに育つ。	② 親子教室開催回数	実績値	3,039人	
			達成度	50.7%	
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	仲良し親子教室	主に0~3歳児の子育て世代親子を対象に、年齢に応じた遊びと親子共に仲間づくりができる場の提供を行った。			
	育児相談	月曜日から金曜日まで支援センターの解放を行い、来所する親子との交流を通じて、育児、子どもの発達、保育所等に関する相談業務を行った。			
	普及促進活動	・保健事業に参加し、育児相談などにより親子との関わりを持つことで支援センターを気軽に利用できるようその存在を伝えた。 ・育児講座等保健係と協力することで内容の充実を図り、対象者に幅広く周知した。また、妊娠中から子育て支援サービスを知る機会となった。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	認定こども園は地域における子育て支援を行う機能を備えているものであり、当該事業は必ず実施しなければならないものである。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	少子化や核家族化などにより、育児不安感や負担感が増加する中、親子の遊びの場や交流の場の確保、相談・援助などの子育て支援は必要である。
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	利用者数は計画当初からみて大きく下回っているが、これは保育所入所児童が増加したことによる(3歳以上児はほぼ100%の入所)。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	利用人数は減ってはいるが、親子教室入会数はあまり変わらず、本事業の目的を十分達成していると考えられる。

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	支援センターが保育所内に設置されていることにより、備品、物品等の供用や保育所職員間の連携がとれている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

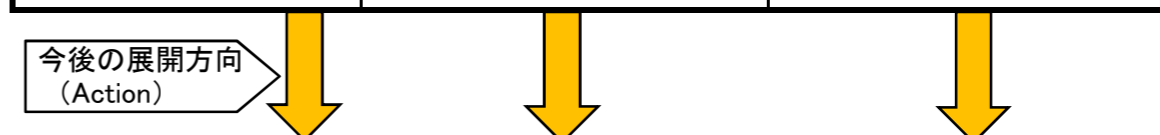
公平	判断の理由	町内すべての乳幼児、保護者が無料で利用が可能。町広報紙等に子育て支援センター情報を掲載し、広く周知している。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
育児における仲間づくりが有効にされており、若い母親の子育てにおける悩み等が解消されていることがうかがえるので、今後も計画どおりに進める必要がある。	同左	



継続/現状維持	継続/現状維持	
関係機関と連携して、保護者に向けての講座等を開催し、内容の充実を図る。また、育児情報交換や交流の場として、より一層子育て親子が参加しやすい環境を整えていく。	同左	

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0801004

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	B	
単位施策	2 「子育て」支援の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	入所児童通所事業	見直し年度	平成21年度	
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	運行便数		#N/A	
事業目標	2便	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	1 住民説明	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容	
計画 内容	運転業務委託	幌内地域からの入所児童通所	幌内地域からの入所児童通所	沢木・幌内地域からの入所児童通所 業務委託	沢木・幌内地域からの入所児童通所 業務委託	沢木・幌内地域からの入所児童通所 業務委託	
	バス燃料代	バス燃料代(1台分)	バス燃料代(1台分)	バス燃料代(2台分)	車両燃料代(2台分)	車両燃料代(2台分)	
	通所事業用車両購入		1路線増やすことにより、バス1台購入 (ジュニアシート購入)		車両車検代	車両車検代	
	バス車検代						
計画 事業費	事業費(千円)	20,315	1,650	7,535	3,710	3,710	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	1,500		1,500			
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	18,815	1,650	6,035	3,710	3,710		
実績 事業費	事業費(千円)	18,745	1,723	6,358	3,374	3,417	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	1,524		1,524			
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	17,221	1,723	4,834	3,374	3,417		
関連 事項	(特定財源の詳細等) 地域政策総合補助金	【評価・実績】	(実施内容等) 休止保育所地域の児童送迎 (実績:1便運行) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 幌内地域からの入所児童送迎 (実績:1便運行) 22年度から使用開始のバス及 びチャイルドシート購入 ※前年度評価結果 A-継続/拡充	(実施内容等) 沢木・幌内・豊丘地区からの入所 児童送迎 (実績:2便運行) ※前年度評価結果 A-継続/拡充	(実施内容等) 沢木・幌内・豊丘地区からの入所 児童送迎 (実績:2便運行) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値	1便	1便	2便	2便	
		年度達成率		104%	84%	91%	92%
		全体達成率		8%	40%	56%	73%
		事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆

事業名	入所児童通所事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	豊田通敏
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤智美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	幌内、沢木及び魚田地区からの保育所入所児童(3歳以上の就学前幼児)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	送迎の便数								
【抱える課題やニーズは】	遠距離通所手段の確保 遠距離通所児童数の減少	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	遠距離通所児童に対する安全な送迎	① 送迎の便数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2便</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>2便</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	2便	実績値	2便	達成度	100.0%
目標年度	平成24年度										
目標値	2便										
実績値	2便										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	通所にかかる保護者負担の軽減	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	遠距離通所児童の送迎	幌内、沢木及び青空保育所の廃止に伴い、当該地区の児童が若草保育所へ通所するための送迎を行った。									
	送迎に係る運転業務の民間委託	児童の送迎に係る車両(バス、ワゴン)の運転業務を民間に委託している。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	遠距離通所者にとって毎日の長距離の送迎は時間的にも金銭的にも大変であり、また、地域の保育所を廃止したときの条件(約束)の一つでもあるため、本事業は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	運転のプロを要する事業所に委託していることにより、より安全及び確実に通所が行われている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

課題あり	判断の理由	事業としては、効率的で目的を果たしているといえるが、通所児童が年々減少しており、通所児童一人当たりのコストが上昇している。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平	判断の理由	地域の保育所を閉鎖したことによって発生した不利益を解消するための事業であるため、概ね公平性を保っているが、停留所の問題などでこれを利用しない家庭(地域)もあり、少しであるが不満の声も聞こえる。 ※ 上記の理由により、利用者にとって受益という考え方にはならない。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
保育所を閉鎖した地域に住む児童(家庭)が不利益にならないよう実施しているため、目的は達成されていると考えられるが、通所児童の減少によりコストがかかることが課題である。	同左	

今後の展開方向
(Action)



継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更
保育所の統廃合時における地域との約束であるため、事業の廃止は難しいが、コスト削減が可能な方法を検討する必要がある。	同左

※展開方向の区分
 継続/現状維持、拡充、縮小、統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0801005

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	B	
単位施策	2 「子育て」支援の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	一時預かり事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	利用延べ人数		#N/A	
事業目標	100人	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加 住民協働	2	関係例規・法令名	雄武町保育規則、雄武町一時預かり事業実施要綱	
		関係個別計画名	1 雄武町次世代育成支援行動計画	

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容		
計画内容	緊急時等における保育対応	一時預かりの受入	一時預かりの受入	一時預かりの受入	一時預かりの受入	一時預かりの受入		
	事業費(千円)	3,250	650	650	650	650		
計画事業費	財源内訳							
	国庫支出金	540			180	180		
	道支出金	360	180	180				
	地方債	0						
	その他	1,230	246	246	246	246		
一般財源	1,120	224	224	224	224			
実績事業費	事業費(千円)	4,944	649	650	649	1,190		
	財源内訳							
	国庫支出金	724			204	260		
	道支出金	449	180	269				
	地方債	0						
その他	2,199	256	111	445	668			
一般財源	1,572	213	270		262			
関連事項	(特定財源の詳細等)							
	一時預かり促進事業補助金	【評価・実績】	(実施内容等) 一時的な預かり保育実施 (実績:131人)	(実施内容等) 一時的な預かり保育実施 (実績:71人)	(実施内容等) 一時的な預かり保育実施 (延べ人数:223人)	(実施内容等) 一時的な預かり保育実施 (延べ人数:453人)	(実施内容等) 一時的な預かり保育実施 (延べ人数:381人)	
	一時預かり使用料		※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続有り)		年度目標値	100人	100人	100人	100人	100人
	年度達成率		100%	100%	100%	183%	278%	
全体達成率	20%		40%	60%	97%	152%		
事業進捗状況	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆			

事業名	一時預かり事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	豊田通敏
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤智美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	就学前の幼児	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	年間利用延べ人数
【抱える課題やニーズは】	核家族化などが進み、一時的に子どもを預けられる環境が減少している。普通保育において入所定員を上回った場合の対応(待機児童対応)	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	緊急時において、一時的に子どもを預けることができる支援保育所に入所できなかった保護者の代替保育の場とする。	①	年間利用延べ人数
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	乳幼児を持つ保護者の育児不安を和らげる。保護者の就労支援。	②	達成度
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	一時的な保育所受入れ	保護者の就労、疾病等により子どもの保育ができない場合、一時的に預かる。	
	待機児童対策による受入れ	保育所入所を希望していたが、定員超過により入所できなかった児童を、積極的に受け入れた。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	本町保育規則及び一時預かり事業実施要綱により、本町子育て支援政策の一環として実施している。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	核家族化が主体となっている現代では、緊急時において一時的に子どもを預けられる環境が乏しいため、本事業の実施は必要である。
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	目標を大きく上回り、必要とされるニーズにほぼ応えることができた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	本年度発生した待機児童対策としても保育所入所の代替策として本事業は非常に有効であった。
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	保育所内での受入れであることから、無理なく、無駄なく事業の実施ができた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

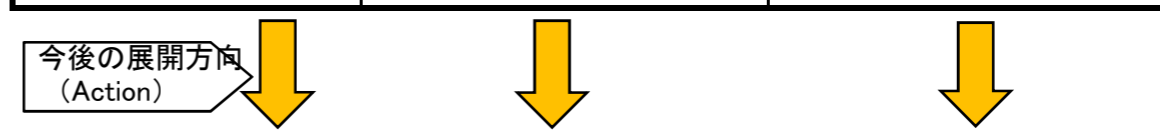
公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	保育所入所要件満たさない家庭においても、緊急又は不規則就労等の場合に活用できる。また、利用料は利用時間や食事の有無で区分し設定しているため、負担割合は公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある	待機児童対策においては、可能な限り受入れを行ったため、普通入所した家庭に対する不公平感を和らげる効果があった。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本事業は、年々広く知れ渡るようになり、利用者も増えている。家庭内による緊急時に子どもを預かる場が必要なのは時代の要請でもあり、子育て支援政策としてはその意義は大きい。		



継続/現状維持		
本事業は、状況等により利用数の変動があるものの、ニーズがなくなることは見込まれていない。受入体制に無理がないよう配慮し、制度周知を充実させ、安心できる子育て環境メニューの一つとして継続することが適当である。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0801006

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	B	
単位施策	2 「子育て」支援の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	保育所地域活動事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	利用延べ人数		#N/A	
事業目標	600人	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加 住民協働	1 高齢者との交流	関係例規・法令名		
		関係個別計画名	次世代育成支援行動計画	

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容		
計画 内容	保育所地域活動事業	高齢者との交流事業 地域子育て家庭への育児講座事業	高齢者との交流事業 地域子育て家庭への育児講座事業	高齢者との交流事業 地域子育て家庭への育児講座事業	高齢者との交流事業 地域子育てに関する育児講座開催	高齢者との交流事業 地域子育てに関する育児講座開催		
	事業費(千円)	2,750	550	550	550	550		
計画 事業費	財源内訳							
	国庫支出金	900	300	300	150	150		
	道支出金	0						
	地方債	0						
	その他	0						
一般財源	1,850	250	250	400	400	550		
実績 事業費	事業費(千円)	2,595	455	532	522	531	555	
	財源内訳							
	国庫支出金	1,255	300	300	380	275		
	道支出金	0						
	地方債	0						
その他	0							
一般財源	1,340	155	232	142	256	555		
関連 事項	(特定財源の詳細等) 次世代育成支援対策交付金	【評価・実績】	(実施内容等) 異世代との交流実施 育児に関する情報提供等実施 (実績:1,035人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 異世代との交流実施 育児に関する情報提供等実施 (実績:1,136人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者・小学校児童との異世代間 交流の実施 育児に関する情報提供等実施 (歯磨き教室、七夕会開催) (実績:1250人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者、小学校児童との世代間 交流の実施 育児に関する情報提供等実施 (歯磨き教室、七夕会開催) (実績:1,820人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者、小・中・高校生との世代 間交流の実施 育児に関する情報提供等実施 (歯磨き教室、七夕会開催) (実績:1,791人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続無し)		年度目標値	600人	600人	600人	600人	600人
	年度達成率		83%	97%	95%	97%	101%	
	全体達成率		17%	36%	55%	74%	94%	
	事業進捗状況		☆☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	

事業名	保育所地域活動事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	豊田通敏
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤智美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	入所児・保護者・高齢者・子育て中の親	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事業への参加者数								
【抱える課題やニーズは】	保育所は、他の世代と接する機会や、町民が保育の様子を見る機会がほとんどない。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	交流機会と参加者の確保。保育内容が見られる環境づくり。	①	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>600人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1791人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>298.5%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	600人	実績値	1791人	達成度	298.5%
目標年度	平成24年度										
目標値	600人										
実績値	1791人										
達成度	298.5%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	他の世代との交流などを通して、特に年長児の自覚と自信や意欲を育てるとともに、町民に保育活動等を知ってもらう機会となるようにする。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	世代間交流	長寿クラブの誕生会での遊戯披露や生活発表会等で相互訪問を行った。また、小学生、中学生及び高校生とはお祭り集会、就業体験、クリスマス等で交流を深めた。									
	地域子育て家庭への育児講座	入所児の保護者や地域の子育て中の方々などに、様々な視点で入所児の様子を見学してもらい、交流や意見交換の場を設けた。また、歯科衛生士を講師とした育児講座を開催し、子育て家庭への情報提供を行った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	世代間交流は、児童の育成に大きな役割を持つとともに、高齢の方々にも喜ばれている。また、保護者や地域を巻き込んだ子育て支援として効果が大きい。この事業については、国の保育指針によって、教育に関する人間関係分野で取り組むこととなっている。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	世代間交流においては、長寿クラブ員などからこうした交流が非常に喜ばれ、また、入所児童にとっても交流そのものや保育所以外での活動は良い経験になる。育児講座においては、家族や地域の方々には保育所の役割についての理解と、関わりを深めることができる。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成
	<input type="checkbox"/>	下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	教材等については、できるだけ他の事業と共用が図られるよう工夫して事業費を抑えている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制
	<input type="checkbox"/>	人員削減
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減
	<input type="checkbox"/>	その他

(4)事務事業の公平性

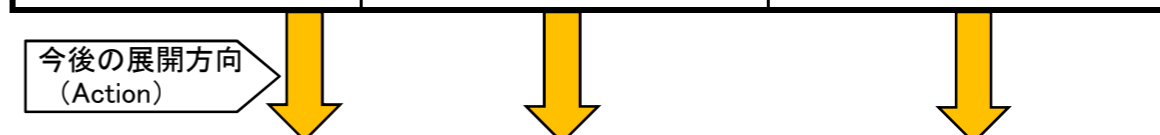
公平	判断の理由	長寿クラブ員や施設利用者、あるいは保護者など、事業ごとに対象範囲を明確にすることにより公平性を保つ。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
世代間交流は、子ども達の心を育てることに大きな役割を持ち、また、保護者や子育て中の方々には保育所開放等とおして情報提供や保育所への理解を深めてもらう機会を多く持った。今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		



継続/現状維持		
今後も内容の検討、充実を図りながら、世代間交流を進め、保護者、子育て家庭に向けては、情報提供、育児講座等地域の子育て向上につながるような支援をしていく。		

※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0801009

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	B	
単位施策	2 「子育て」支援の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	保育所給食調理業務委託事業	見直し年度		
事業期間	平成22年度～平成24年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	委託契約数		#N/A	
事業目標	1契約	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	1	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計画内容	保育所給食調理業務の委託			調理業務委託	調理業務委託	調理業務委託	
	事業費(千円)	65,979	0	0	21,993	21,993	
計画事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	2,000			1,000	1,000	
一般財源	63,979			21,993	20,993	20,993	
実績事業費	事業費(千円)	60,146	0	0	20,120	20,107	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	21,735			7,223	6,275	8,237
一般財源	38,411			12,897	13,832	11,682	
関連事項	(特定財源の詳細等) 児童運営費保護者負担金 保育所職員等給食費負担金	【評価・実績】	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) 給食調理業務の民間委託を実施 【昼食、おやつ等調理業務、館内一部清掃業務、児童に対する食育】 ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 給食調理業務の民間委託を実施 【昼食、おやつ等調理業務、館内一部清掃業務、児童に対する食育】 ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値			1契約	1契約	
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	91%	91%	91%
		全体達成率	0%	0%	30%	61%	91%
		事業進捗状況			☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆

事業名	保育所給食調理業務委託事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	豊田通敏
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤智美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	保育所入所児童及び職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	安全な給食の提供及び食育効果		
【抱える課題やニーズは】	保育所運営に係る調理業務の効率化及び給食の安全性		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	保育所給食における安全及び効率の維持並びに労務管理業務量の削減		① 指標の数値化は困難であるが、衛生管理等が徹底されており、事業の成果はほぼ達成されている。	目標年度	
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	より安心、安全な給食提供体制の維持と、業務全般を民間委託することにより必要な人的配置の確保と労務管理業務の削減を図る。			実績値	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	給食調理業務の民間委託	昼食、おやつ、行事食調理、食育、施設の一部清掃について業務委託を行った。保育所職員と委託会社との給食関係会議を毎月開催し、食事内容等の評価や検討を行っている。	達成度	%	
	給食関係者の定期的会議		平成24年度		
			1契約		
			100.0 %		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	保育所では、国の「保育所における食育に関する指針」を参考に、保育の一環として食育を位置付けており、給食を通して取り組んでいる。この業務は、保育所業務の効率化、専門性の高さ等の理由から専門業者に委託することが最善と考えている。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	業務委託したことにより、委託業者の持つ実績及び経験が生かされ、また、メニューも豊富になり児童や職員に好評を得ている。衛生及びアレルギー対応関係では、給食業務を委託して以来特に問題となった事例がなく、安全な給食が提供されている。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	会社派遣の専任栄養士の常勤により現場の声がダイレクトに反映された献立となり、同時に事務処理の迅速化が図られている。また、調理員の代替職員の配置が必要に応じてスムーズに行われ、労務管理の効率化が図られている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input checked="" type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

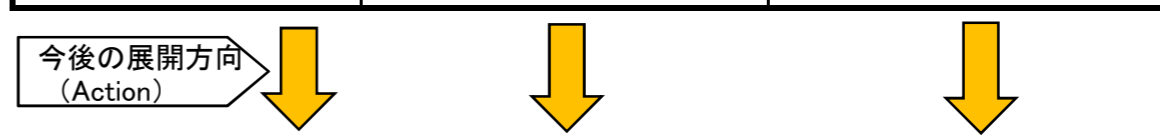
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	0歳の離乳食から5歳児まで、年齢又は時節に応じた給食を入所児全員に提供している。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
給食の安全、衛生や栄養等の質の確保が図られており、保育業務における食育の円滑な運営が実行されている。		



継続/現状維持		
委託して3年が経過しており、今まで大きな問題もなく業務としては良好である。今後も、この3年間を振り返り、改善できるものはしていくことで、業務の充実を図っていく。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0801010

政策目標	2 めくもり・雄武	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	A	
単位施策	2 「子育て」支援の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	障がい児・低年齢児保育事業	見直し年度		
事業期間	平成22年度～平成24年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	障害児・低年齢児保育所入所希望受入率		#N/A	
事業目標	受入数/希望者数×100	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	1	関係例規・法令名	⇒	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計画内容	障がい児等入所受入れに係る保育士及び補助職員の人員配置			障がい児入所受入れに対応する保育補助職員の加配	障がい児、低年齢児受入れに対応する保育士及び代替職員の加配	障がい児、低年齢児受入れに対応する保育士及び代替職員の加配 (加配人員: 保育士臨時職員2名、代替職員1名)	
	事業費(千円)	15,924	0	0	2,495	5,829	
計画事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	4,606			2,243	2,363	
	地方債	0					
	その他	68			13	15	
一般財源	11,250			239	3,451	7,560	
実績事業費	事業費(千円)	15,829	0	0	2,495	6,602	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	4,606			2,243	2,363	
	地方債	0					
その他	50			13	14	23	
一般財源	11,173			239	4,225	6,709	
関連事項	(特定財源の詳細等)		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】		※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果 中度の自閉症児保育補助臨時職員の採用	※前年度評価結果 低年齢児及び障がい児保育補助代替職員の加配 ※ 経常+政策予算	※前年度評価結果 低年齢児及び障がい児保育補助代替職員の加配～臨時職員1人 (前年度比)
			※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値					
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	100%	113%	89%
	全体達成率	0%	0%	16%	57%	99%	
	事業進捗状況			☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆	

事業名	障がい児・低年齢児保育事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	豊田通敏
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤智美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	保育所入所児童の内、障がい児及び低年齢児並びに保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	障がい児及び低年齢児保育所入所希望受入率	
【抱える課題やニーズは】	障がい児又はその疑いのある児童の増加及び家族構成又は家庭環境の変化による低年齢児入所希望者の増加に対する対応	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	障がい児若しくはその疑いのある児童又は低年齢児の受入れを行うにあたり、より良い発達を促し、安全な保育を実行するために必要な人員配置及び体制を整える。	① 障がい児受入数/希望者数×100	目標年度	平成24年度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	十分な配慮のもと、保育及び育児支援ができること。		目標値	100%
			実績値	100%
			達成度	100.0%
		② 低年齢児受入数/希望者数×100	目標年度	平成24年度
			目標値	100%
			実績値	95%
			達成度	95.2%
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	保育補助職員の加配	障がい児及び低年齢児の入所に伴いクラス担任の他に保育補助臨時職員を加配し、適切に保育を実施した。		
	関係機関との連携	障がい児への適切な保育を実施するため、また、その疑いのある幼児を早期に発見して支援ができるよう、幼児療育センター、発達障害者支援道東地域センター及び町保健福祉課と連携し、情報交換をしたり指導を受けたりして保育の資質の向上に努めた。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	保育を必要とする子(保育に欠ける子)を保育する義務が市町村にはあり、可能な限り受入れをしなければならない。また、障害児保育(福祉)、待機児童対策などについても充実した取組が保育所には求められている。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり	設定した目標値の達成状況	24年度は予想を超える低年齢児(0、1歳)の入所希望があり、0歳2人、1歳児4人計6人が入所できない事態(待機児童)が発生した。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る
	<input type="checkbox"/>	達成
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成
	<input checked="" type="checkbox"/>	入所児童に対しては、質の高い保育が実施された。

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由	保育士配置最低基準を超える保育士を配置したことにより、子ども達の安全性が向上しており、また、きめ細やかな保育が可能となっている。ただし、待機児童が発生したことにより、今後はこれに対応する体制が必要となる。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制
	<input type="checkbox"/>	人員削減
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	障がい児及び低年齢児に対し良質な保育を実施することにより、個別的な成長や発達が有効的に図られる。結果、クラス全体の安定的な運営が促進されている。待機児童が発生した場合には、入所基準に基づき判断しており、公平性が保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない
	<input type="checkbox"/>	その他

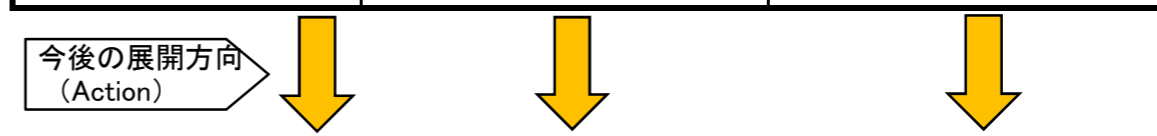
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
入所児童数が定員内で収まるのであれば、障がい児等に対し質の高い保育が可能となるため、この事業は有効であるが、低年齢児の入所希望が増加していることに対しては、対策が必要である。	同左	



継続/拡充	継続/拡充	
障がい児、低年齢児共その数が増加傾向にあるため引き続き事業を継続する必要がある。また、それに対応できる職員体制等の見直しが必要がある。	同左	

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0801012

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	A	
単位施策	2 「子育て」支援の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	保育所整備事業	見直し年度		
事業期間	平成24年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	空調設備の改修		#N/A	
事業目標	厨房空調設備入替 事務所エアコン設置	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加 住民協働	2	関係例規・法令名		
		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容	
計画内容	厨房内空調室外機入替え 事務室内エアコン設置					厨房内空調室外機入替え 事務室エアコン設置	
	事業費(千円)	1,300	0	0	0	1,300	
計画事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	1,300				1,300	
実績事業費	事業費(千円)	1,260	0	0	0	1,260	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	1,260				1,260	
関連事項	(特定財源の詳細等)		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】		※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値				厨房空調設備入替 事務所エアコン設置	
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	97%
		全体達成率	0%	0%	0%	0%	97%
	事業進捗状況					☆☆☆☆	

事業名 保育所整備事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	豊田通敏
	評価者 作成者 職氏名	保育所長	豊田通敏

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	入所児童及び職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	保育所内における空調設備の充実								
【抱える課題やニーズは】	食中毒の発生及び職員の健康管理	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	厨房及び事務室の適切な室温管理	① 厨房用室外機交換	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	1式	実績値	1式	達成度	100.0%
目標年度	平成24年度										
目標値	1式										
実績値	1式										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	厨房における室温の適正管理により食中毒の原因となるノロウイルス等の発生を抑える。事務室を適正な温度に管理し、執務環境の向上を図る。	② 事務室エアコン設置	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1式</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	1式	実績値	1式	達成度	100.0%
目標年度	平成24年度										
目標値	1式										
実績値	1式										
達成度	100.0%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	厨房及び事務室の空調設備工事	厨房空調設備における冬期間対応の室外機を入替えし、同時に事務室にエアコンを設置した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	厨房に設置してあるエアコンは、冬期間の作動を想定していないものであるため、冬期間は厨房の室温が30℃を超えることが多々あり、ノロウイルス等の発生原因ともなるため、必要な事業である。また、職員室においても健康管理上必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	必要な設備は完備された。厨房において、冬期間に心配されたノロウイルス等による食中毒の発生もなかったため、今後も安心して安全な給食を提供できると思われる。事務室については、設置が秋であったため、測定はしていない。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	設置にあたっては取扱業者2社による見積合わせを実施し、予定価格を大幅に下回る価格で落札した。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

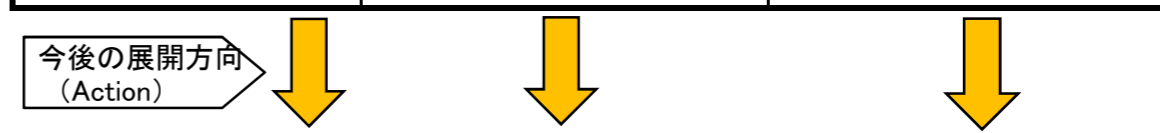
公平	判断の理由	対象が保育所内で生活する児童と職員であり、健康管理上必要なものを設置した事業であるため、全員に受益がある。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
健康上心配された案件であったが、事業の完了により、保育所業務の安全性が高まった。		



終了		
前期計画においてはこの事業は終了となるが、今後年数を経て施設の老朽化が進んでくれば、内容等を精査の上、事業を進めることになる。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止